



岡田 聡議員

### 医療事務の外部委託は必要か

### 事務処理が円滑になった

**問** 町営診療所何力所かの医療事務を外部委託しているようであるが、本来、さほど高度な専門知識まで必要としない事務

だと考える。地域の雇用を確保するためにも、町内あるいは近隣町村の人材を採用し事務処理に充てるべきである。必ずしも、正職員でなくてもいい。

地域のためにも、その方がメリットがあると考えられるか。

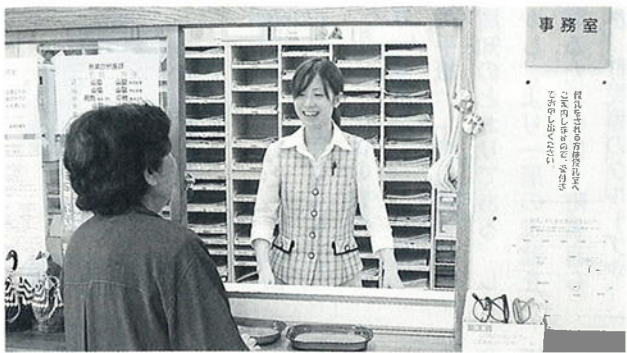
**答** (山口町長)

現在本町で運営している4診療所のうち、名和診療所・大山診療所・大山口リハビリセンターで医療事務の外部委託を行っている。

内容は、日常業務では、患者さんの受付、診療費の計算、領収書の発行等。1月単位では、診療報酬明細書の発行と点検が主である。

委託により、診療報酬の請求ミスが減少し、診療報酬の改正にも的確に対応でき、看護師の時間外勤務が減少した。これまでレセプトの発行と点検に医師と看護師を総動員し

### 医療事務の執務風景



これまでレセプトの発行と点検に医師と看護師を総動員し

ていたことや、事務職員の休暇や異動、退職等で支障を来していたこと等、解消され円滑に行っている。

### ごみ袋有料化後は

### さらなる減量や分別の徹底を

うか、また、不法投棄が増えてはいないか。さらなる減量を図るためには、分別の徹底が必要だが、自治会などの協力体制は万全か。

**答** (山口町長)

ごみの排出抑制に取り組む契機ととらえて協力をお願いしているが、1〜5月までの5カ月間で、可燃ごみ4トン増、不燃ゴミは8・4トン増となった。

可燃ごみは、月当たり約2トン、1家庭で350グラムを減量していた。だと町内の焼却施設の処理能力に収まる。引き続き減量化の取り組みと分別の徹底を呼びかけて行きたい。

**問** 今年1月からごみ袋が有料とされた。ごみ袋の有料化は、処理費用の一部負担もあるが、ごみの減量化も大きな狙いの一つである。

ごみ排出量の変化はどの



練習にはげむスポーツ少年団

### 小学生のスポーツ育成は

**問** 子どもたちのスポーツ活動は、スポーツ少年団として組織され、指導者の下活動している。体力や精神力の向上に大変有効である。

教師の関わりによる質の向上を図れないか。

また、日頃スポーツに関わりの少ない子どもたちが、健康のために何らかの運動に親しめる仕組みづくりが必要と考えるかどうか。

**答** (山田教育長)

町内では、9種目、19団体が活動している。学校社会をはなれて地域社会の中で、心や体を育てていこうというものである。有志の指導者を核に、家族や先生の支援や連携のあり方に配慮し、スポーツ活動の活発化に努めている。

学校の体育授業は平均週1・5時間と少ない。家庭の中で健康・体力づくりを生かせるような情報を提供したり、先生方の体力づくりのノウハウを社会教育や地域活動に生かしていきたい。